

倒産集計**信用交換所京都本社****11年9月繊維倒産****件数・負債額ともに落ち込む****▼全国▲ 発生件数=36件 負債額=49億8300万円**

2011年(平成23年)9月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)は36件。前月比で4件(10.0%)、前年同月比で16件(30.8%)減少した。

負債額は49億8300万円。負債が10億円を超えた企業がなく、3億円以上も2件にとどまるなど小規模倒産が大勢を占めた結果、前月比95億6200万円(65.7%)、前年同月比103億9600万円(67.6%)の減少となった。

国内経済は8月の自動車国内生産が前年比プラスに転じるなど、一部好転の兆しも見えてきたが、当月は台風被害や天候不順が続き、年末に向けても震災復興税を含めた増税問題などもあって消費を喚起する要因に乏しい。また、海外情勢も米国の株安、ユーロ安で世界恐慌を予想する専門家も現れ、先行きの見通しが一層不透明となっている。

こうした中、当月は札幌アンビシャス上場の㈱インネクスト(東京都品川区、液晶製造装置ほか製造、負債額10億7000万円)が破産、東証1部の㈱サンシティ(仙台市青葉区、マンション販売、同248億8800万円)が民事再生を申請し、今年の上場企業の破たんは4社目となったが、繊維業界は比較的資金需要の少ないこともあり引き続き倒産は小康を保っている。

ようやく政府も為替対応策を示し、セーフティネットにも円高の影響によって急激に売上高が減少している中小企業者を対象とする要件を追加、金融円滑化法と合わせ、資金繰り支援を続けている。このため倒産件数は低位で推移しているものの、返済猶予を受けた企業も業績が持ち直さず、破たんに至るケースが徐々に増加していることから、資金需要が増す年末に向けて楽観視はできない状況と見られる。

業種別では「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」「小売商」各13件、「織物製造」3件、「織物卸」「ニット製品・洋品雑貨製造卸」各2件、「紡績・擦糸製造」「染色整理・特殊加工」「呉服・和装製品製造卸」各1件。

原因別では「業績ギリ貧」が29件で全体の80.6%を占め、次いで「業況急変」3件、「放漫経営」2件、「資金力薄弱」「貸し倒れ損失」各1件となった。

▼京都▲ 発生件数=2件(前年同月2件) 負債額=2億6000万円(前年同月6億6500万円)**▼滋賀▲ 発生件数=1件(前年同月1件) 負債額=2億3500万円(前年同月1100万円)**